



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月6日

上場会社名 SOLIZE Holdings株式会社 上場取引所 東
コード番号 5871 URL <https://www.solize.com/>
代表者 （役職名） 代表取締役社長CEO （氏名） 宮藤 康聡
問合せ先責任者 （役職名） 取締役 （氏名） 木下 和重 TEL 03-5214-1919
半期報告書提出予定日 2025年8月6日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年12月期中間期	12,226	13.8	△431	—	△427	—	△252	—
2024年12月期中間期	10,747	—	88	—	60	—	18	—

（注）包括利益 2025年12月期中間期 △330百万円（－％） 2024年12月期中間期 142百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	△47.92	—
2024年12月期中間期	3.67	3.46

- （注）1. 当社は2023年12月期中間期においては、中間連結財務諸表を作成していないため、2024年12月期中間期の対前年同中間期増減率の記載をしておりません。
2. 当社は、2024年2月7日に東京証券取引所スタンダード市場に上場したため、2024年12月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益は、新規上場日から2024年12月期中間期の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
3. 当社は2025年12月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載をしておりません。

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		％
2025年12月期中間期	15,085		10,960		72.7
2024年12月期	15,448		11,478		74.3

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 10,960百万円 2024年12月期 11,478百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	47.00	47.00
2025年12月期	—	0.00			
2025年12月期（予想）			—	55.00	55.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	27,000	18.9	500	9.8	500	20.0	350	37.5	66.63

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 6社 (社名) SOLIZE PARTNERS株式会社、SOLIZE Ureka Technology株式会社、+81株式会社、SOLIZE Canada Corporation、SOLIZE Corporation (Thailand) Ltd.、株式会社フューレックス、除外 ー社 (社名) ー

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(当中間連結会計期間における連結範囲の重要な変更)」をご覧ください。

- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年12月期中間期	6,000,000株	2024年12月期	6,000,000株
2025年12月期中間期	701,687株	2024年12月期	747,169株
2025年12月期中間期	5,279,777株	2024年12月期中間期	4,941,852株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料はTDnet及び当社ホームページで同日開示しております。

(決算説明会内容の入手方法について)

2025年8月7日に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。

決算説明会の動画及び説明内容(書き起こし)については当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 中間連結貸借対照表	3
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	4
中間連結損益計算書	4
中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	6
(当中間連結会計期間における連結範囲の重要な変更)	6
(会計方針の変更に関する注記)	6
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(重要な後発事象の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループを取巻く経済環境は厳しいものとなりました。当社グループの主要顧客の属する自動車産業では、米国関税政策の動向から不透明感が増し、足元、先行きともに景況感が悪化しました。このような環境の中において、自動車メーカー等の主要顧客の間では激しい技術開発競争が継続しているものの、一部に開発コストを抑制する動きが出始めることとなりました。当社グループは、当中間連結会計期間において、グローバルに展開する顧客ニーズに応えるためカナダ及びタイ王国に拠点を設立、カナダにおいてはエンジニアリング人材サービスを展開する事業の買収を行い、サービスの提供を開始いたしました。また技術領域においても拡大を継続、AIソリューションのサービス提供の促進、新規の3DプリンターメーカーRoboze S. p. A. との提携等を推進して参りました。さらにソフトウェア領域での成長を意図して独立系システム会社の株式会社フューレックスの全株式を取得、子会社化を行い、成長戦略を遂行して参りました。

これらの結果、当中間連結会計期間の当社グループの連結売上高は12,226百万円(前年同期比13.8%増)、営業損失は431百万円(前年同期の営業利益は88百万円)、経常損失は427百万円(前年同期の経常利益は60百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失は252百万円(前年同期の純利益は18百万円)となりました。

(デザイン事業)

デザイン事業の市場における当中間連結会計期間の事業環境は、自動車産業を中心に設計開発に係るサービスやコンサルティングサービスについて堅調な需要が継続して参りましたが、第2四半期に入り同分野における一部の需要が弱含む傾向となりました。当社グループは、国内において大手自動車メーカーを中心に設計開発及び解析に係る受託、エンジニア派遣、コンサルティングサービスの提供を拡大、海外においても大手自動車メーカー向けを中心に設計開発に係るエンジニア派遣、請負受託、ソフトウェア販売等の分野において拡大して参りました。一方、株式会社フューレックス子会社化に係る投資、将来にわたる一層の収益拡大を目的とした体制強化のための人員増強、そのための採用活動、海外拠点の設立や事業買収、さらに、AIソリューションのサービス提供を強化するためソフトウェアの開発等に係るリソースを投下して参りました。また、第2四半期には新卒採用として入社したエンジニアのトレーニングを実施し、第3四半期以降の収益に貢献する体制を構築しております。

これらの結果、デザイン事業の売上高は10,038百万円(前年同期比13.6%増)、セグメント損失は582百万円(前年同期のセグメント損失は△8百万円)となりました。

(マニファクチュアリング事業)

マニファクチュアリング事業の市場における当中間連結会計期間の事業環境は、自動車産業を中心に3Dプリンターによる試作品製造サービスに対する需要が拡大することとなりました。当社グループは、最新の造形速度と精度を持つ3Dプリンターや、より高強度の材料による造形を可能にする3Dプリンターを導入し技術展示会等にてプロモーション施策を推進、自動車関連企業や機械メーカーを中心とした当社グループ主要顧客に対する試作品サービス提供の拡大を継続して参りました。

これらの結果、マニファクチュアリング事業の売上高は2,188百万円(前年同期比14.4%増)、セグメント利益は151百万円(前年同期比57.3%増)となりました。

(グループ全体)

営業外収益は、為替差益の計上等により、前中間連結会計期間より10百万円増加し20百万円となりました。また、営業外費用は、上場関連費用等の発生がなくなったこと等により、前中間連結会計期間より21百万円減少し16百万円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて363百万円減少し、15,085百万円となりました。手元資金による株式会社フューレックスの株式取得等によりおのれんが1,183百万円増加、その他の無形固定資産が260百万円増加、投資その他の資産が286百万円増加、その他の流動資産が83百万円増加した一方、現金及び預金が2,352百万円減少したこと等が主な要因となっております。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて153百万円増加し、4,124百万円となりました。未払金が89百万円増加、契約負債が72百万円増加、買掛金が68百万円増加した一方、未払法人税等が150百万円減少したこと等が主な要因となっております。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて517百万円減少し、10,960百万円となりました。親会社株主に帰属する中間純損失、及び、配当により利益剰余金が499百万円減少したこと等が主な要因となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月14日に開示しました2025年12月期連結業績予想から変更はございません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,238	4,886
受取手形、売掛金及び契約資産	4,310	4,356
棚卸資産	538	558
その他	511	595
貸倒引当金	△31	△37
流動資産合計	12,567	10,358
固定資産		
有形固定資産	814	877
無形固定資産		
のれん	43	1,226
その他	243	503
無形固定資産合計	286	1,730
投資その他の資産	1,754	2,041
固定資産合計	2,856	4,649
繰延資産	24	76
資産合計	15,448	15,085
負債の部		
流動負債		
買掛金	574	642
未払金	447	536
未払費用	630	644
未払法人税等	150	—
未払消費税等	283	275
契約負債	269	341
賞与引当金	1,243	1,250
その他	163	187
流動負債合計	3,762	3,878
固定負債		
資産除去債務	161	169
その他	45	76
固定負債合計	207	245
負債合計	3,970	4,124
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	10
資本剰余金	1,392	1,423
利益剰余金	10,355	9,855
自己株式	△487	△457
株主資本合計	11,270	10,831
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	1
為替換算調整勘定	206	127
その他の包括利益累計額合計	207	129
純資産合計	11,478	10,960
負債純資産合計	15,448	15,085

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	10,747	12,226
売上原価	7,819	9,013
売上総利益	2,928	3,213
販売費及び一般管理費	2,840	3,644
営業利益又は営業損失(△)	88	△431
営業外収益		
為替差益	0	7
受取利息	2	5
補助金収入	1	—
その他	5	7
営業外収益合計	10	20
営業外費用		
支払利息	2	1
株式交付費	8	—
上場関連費用	11	—
投資事業組合運用損	13	13
その他	1	2
営業外費用合計	37	16
経常利益又は経常損失(△)	60	△427
特別損失		
減損損失	—	3
投資有価証券評価損	18	19
特別損失合計	18	23
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	42	△450
法人税等	24	△197
中間純利益又は中間純損失(△)	18	△252
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	18	△252

(中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	18	△252
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	1
為替換算調整勘定	123	△78
その他の包括利益合計	124	△77
中間包括利益	142	△330
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	142	△330

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(当中間連結会計期間における連結範囲の重要な変更)

当中間連結会計期間より、SOLIZE Canada Corporation及びSOLIZE Corporation (Thailand) Ltd.を新設したため、並びに、株式会社SOLIZE分割準備会社1(2025年7月1日付でSOLIZE PARTNERS株式会社へ商号変更)、株式会社SOLIZE分割準備会社2(2025年7月1日付でSOLIZE Ureka Technology株式会社へ商号変更)及び株式会社SOLIZE分割準備会社3(2025年7月1日付で+81株式会社へ商号変更)を分割準備会社として新設したため、新たに連結の範囲に含めております。

また当中間連結会計期間より、株式会社フューレックスを株式取得により完全子会社としたため、新たに連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表に与える影響はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(グループ通算制度の適用)

当社及び国内連結子会社は、当中間連結会計期間から、単体納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日 企業会計基準委員会)に従っております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注)
	デザイン 事業	マニユファ クチュアリ ング事業	計		
売上高					
一時点で移転される財又は サービス	544	1,785	2,329	—	2,329
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	8,290	127	8,417	—	8,417
顧客との契約から生じる収益	8,834	1,912	10,747	—	10,747
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	8,834	1,912	10,747	—	10,747
セグメント間の内部売上高又 は振替高	12	21	34	△34	—
計	8,847	1,934	10,782	△34	10,747
セグメント利益又は損失(△)	△8	96	88	—	88

(注) セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注)
	デザイン 事業	マニユファ クチュアリ ング事業	計		
売上高					
一時点で移転される財又は サービス	594	2,065	2,660	—	2,660
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	9,443	122	9,565	—	9,565
顧客との契約から生じる収益	10,038	2,188	12,226	—	12,226
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	10,038	2,188	12,226	—	12,226
セグメント間の内部売上高又 は振替高	13	29	42	△42	—
計	10,051	2,217	12,268	△42	12,226
セグメント利益又は損失(△)	△582	151	△431	—	△431

(注) セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当中間連結会計期間に「デザイン事業」セグメントにおいて、RACAR Canada Inc. からの事業譲受により、のれんを179百万円計上しております。

また、当中間連結会計期間に「デザイン事業」セグメントにおいて、株式会社フューレックスの株式を取得したことに伴い、のれんを1,026百万円計上しております。なお、当該のれんは取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象の注記)

(当座貸越契約の締結)

当社は、機動的な運転資金調達手段を確保することを目的として、2025年7月1日付で株式会社三井住友銀行との間で当座貸越契約を締結いたしました。

(1) 借入先	株式会社三井住友銀行
(2) 借入限度額	2,000百万円
(3) 借入金利	基準金利+スプレッド
(4) 契約締結日	2025年7月1日
(5) 契約期間	2025年7月1日～2026年6月30日
(6) 資金使途	運転資金
(7) 担保の有無	なし